

ロンドン2012大会のレガシーを訪ねて

2021年3月24日、ロンドンオリンピック(2012年開催)の跡地が現在どのように活用されているのか見学した。

オリンピック開催後のオリンピックパークやその周辺は、クイーンエリザベスオリンピックパークとして、ロンドン・オリンピック・レガシー開発公社(London Legacy Development Corporation(LLDC))が開発を行っている。

また、クイーンエリザベスオリンピックパークは、東ロンドンのニューアム区にあり、ニューアム区は、エスニックマイノリティの割合が高く、貧困地域でもある一方、空港やロンドンの主要な駅へのアクセスも良く、現在では、大学や手頃な住宅の建設が進み、観光地としてだけでなく、住みよい環境に変化している。

また、オリンピックの際に利用されたプレスセンター及びブロードキャストセンターは、東ロンドンにおけるイノベーションを創出する場として、またオリンピックの文化・建築のレガシーを受け継ぐためにアーティストやパフォーマーがスタジオを持つなど創造的な場所になっていることも印象的だった。

(参照)ロンドン・オリンピック・レガシー開発公社(London Legacy Development Corporation(LLDC))について

英国の地方自治(概要版) - 2019年改訂版 -

<https://www.jlgc.org.uk/jp/wp-content/uploads/2020/09/b18e4932a2a5217b0c946c5a8d786bad.pdf>

ノースグリニッジ駅前

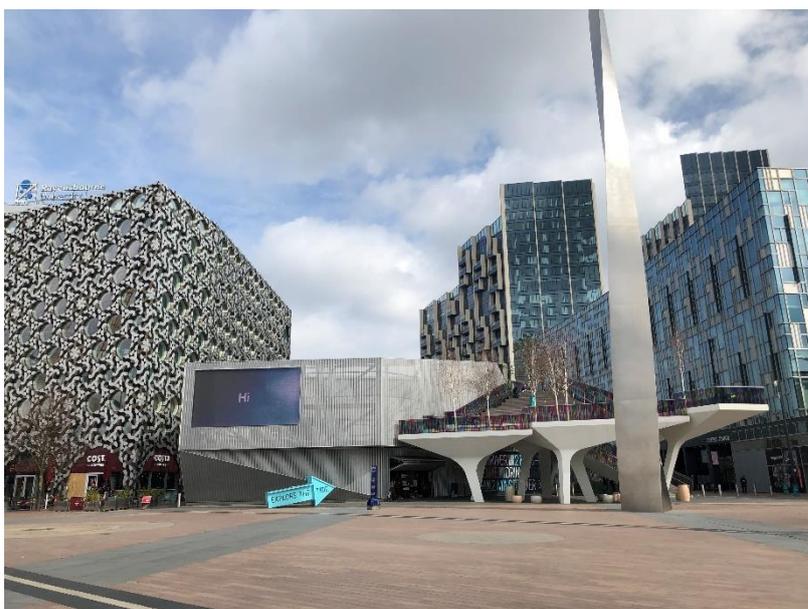
ノースグリニッジ駅周辺のエリアは、O2というドームや大学などがあり、現在ある建物はデザイン性に富んだものが多く、大学などが入居しているが、ロックダウン下であることを差し引いても広範囲にわたって栄えているという印象ではなかった。現在ある商業施設なども、誘致に多額の補助金がかかっており、民間企業が進んでこの

地を開発したいと考えている状況ではない。しかし、住宅用のビルの建設工事も行われていた。



オリンピックでも会場として使われたミレニアムドーム

現在は、モバイル会社 O2 がスポンサーをしており、アウトレット及びコンサート会場となっている。またドームの上を歩くこともできる。



デザイン性の高い建物やオブジェ

左側の建物には大学が入っている。



コンサートの広告



Up At The O2

ドームの上を歩くことができるアトラクションは、ロックダウン後に行きたい場所としても人気だという。

エミレーツ・エア・ラインで対岸へ移動

ノースグリニッジからテムズ川の対岸へは、オリンピックの会場を結ぶために作られたロープウェイで渡ることができる。航空会社のエミレーツ航空が命名権を取得している。作られるときには、オリンピック後も通勤などに使われて採算が取れるとされていたが、周囲に観光地も少なく、赤字が続いている。



ロープウェイからの風景

ノースグリニッジ川からテムズ川北側を望む。大規模な開発が行われていることが見て取れる。



ロンドンの新庁舎

2021年12月からロンドン市長室などが移動する予定の新庁舎。メイン庁舎は遠くに見える階段状の建物。

クイーンエリザベスオリンピックパーク

ロンドンオリンピックのメイン会場となったこの地は、現在多くのスポーツ施設や公園、教育機関、企業、住宅が集まる場所となっている。広大な敷地や通路は、オリンピックという世界最大のスポーツイベントが開催された雰囲気醸し出しており、eスクーターや自動運転車の実証実験なども行われている。



最寄りのストラトフォード駅



ロンドン・オリンピック・レガシー開発公社(London Legacy Development Corporation)のオフィスが入るビル

低層階はショッピングセンターになっている。



クイーンエリザベスオリンピックパークの地図

(出典元 : <https://www.queenelizabetholympicpark.co.uk/the-park/plan-your-visit/park-map>)



オリンピック会場へと通じる橋



市役所前のアート

オリンピックの開催に合わせて創られた。後ろの建物は、オリンピックの会場としてふさわしくないとして、スポンサーの垂れ幕やこのようなアートで隠された。



ビジターセンターがある East Bank

現在、このあたりは開発中であり、今後 UCL など大学が移転する予定。都心に比べて家賃が安いこともあり、近くには、海外からの留学生が入居する学生寮もある。



London Aquatics Centre

誰でも利用できる温水プール。区民かどうかに関わらず、統一の料金で利用することができる。温水プールを含め、オリンピックパーク全体の電力は、バイオマスエネルギーで賄われている。



ArcelorMittal Orbit

英国で一番背の高い公共アート。178メートルの高さを誇り、2016年6月から滑り台として活用されている。40秒(時速15マイル)で駆け下りることができる。

(参照)<https://www.queenelizabetholympicpark.co.uk/whats-on/events/2020/08/ride-the-slide>



ロンドンスタジアム

プレミアリーグのサッカーチームの本拠地となっている。



Lee Valley Velo Park

トラックサイクリング、BMX、マウンテンバイクを楽しむことができる施設
(参照)

https://www.queenelizabetholympicpark.co.uk/-/media/qeop_london-2012_a5-leaflet_web.ashx?la=en



桜が咲いていました



選手村として建てられた建物

選手村は、2013年11月から East Village として活気のあるコミュニティとなっており、2,818戸の49%が手頃な住宅となっている。子供の遊び場、学校、保育園、ジム、レストランが徒歩圏内にある。交通の便が良く、ロンドン市内の主要な駅に40分以内で、また、すべてのロンドンの国際空港に1時間以内でアクセスできる。将来的

に、エリザベスラインが開通する予定であり、ロンドンの郊外及びヒースロー空港へのアクセスが改善される。

そのため、居住エリアとしても人気が高い。ロンドン・オリンピック・レガシー開発公社(London Legacy Development Corporation)は、2036年までに33,000戸の建設を目指しており、すでに1万戸の建設が完了している。



子供たちのための遊び場

オリンピックのレガシーとして、近隣住民が利用できるようになっている。



バーベキューサイト

(参照)住宅に関して

<https://www.queenelizabetholympicpark.co.uk/the-park/homes-and-living/current-homes>

<https://www.queenelizabetholympicpark.co.uk/the-park/homes-and-living>

アクセスに関して

<https://www.queenelizabetholympicpark.co.uk/the-park/plan-your-visit/getting-here>



メディアが集結していたプレスセンター、ブロードキャストセンター

この建物は Here East と名付けられ、オリンピック開催後の東ロンドンのコミュニティにおける長期的な経済成長を目的として、イノベーション創出の場となっている。

Plexal という企業がイノベーションセンターとして産業、大学、スタートアップ企業等のコラボレーションを促進している。また、バレエの振付師として著名なウェイン・マクレガー氏のスタジオも入っており、世界でも有名なアーティストやパフォーマーがオリンピックによる建築や文化のレガシーを受け継ぐ場所でもある。

また、隣接する建物 Canal side には、レストラン、バー、カフェ、ジムが入っている。

(参照)

<https://hereeast.com/about/>

<https://hereeast.com/whos-here/>



Here East に隣接する運河

NPO によって管理されている。ボートへ住んでいる人も停泊しているが、同じ場所に停められるのは2週間のみのため、2週間ごとに移動しなくてはならない。